

広陵中だより



学校の教育目標
～ひびき合い 高め合う生徒～

発行所; 可児市立広陵中学校
第 12 号 発行日; 令和8年2月20日

「人権と命を大切にする学校」「明日も来たくなる学校」「笑顔溢れる学校」

教頭 渡邊 有希

長坂階段に想う

広陵中学校は丘の上に建っており、東側は 96 段の長坂階段があります。長坂方面から登校してくる生徒たちは、毎日長い上り坂を歩いた後、最後に 96 段の階段を上がってきます。階段の一番上から眺める景色は本当に格別です。紅葉の時期は観光地になってもよいと思うほど素敵な景色です。



卒業を控えた 3 年生。私は、彼らが 1 年生の時から、この階段を毎朝上がってくる姿を見てきました。階段の途中で何度も休憩をはさみ、汗を拭きながらでないとうがってこれなかった子、「先生！エレベーターかエスカレーターつけてよ。」と言っていた子。その子たちが 3 年生になり、今は元気に挨拶をしてくれたり、受験の話をしてくれたりと、階段を上がっていくことに苦痛は感じていないようです。3 年生の生徒たちは毎朝、自分の足でこの階段を上がることを「当たり前」にすることができたのだと思います。

2 月のある朝、3 年生の生徒たちに「あと何回、この階段を上るのかな？なんかさみしいよね。」と声を掛けました。すると、「あと、30 もないよなあ。悲しいな。」と答えが返ってきました。胸が熱くなると同時に、たくましくなったなあと感じました。

毎朝上がる 96 段、最初は単なる 96 (苦^{くろ}勞) でしかなかったかもしれません。でも、この「苦勞」が、確実に生徒の身体や心を成長させました。これから先も様々な「苦勞」が目の前に現れると思いますが、長坂階段での経験のように一つ一つ大きく成長してくれると信じています。

卒業式の日もきっと長坂階段を「当たり前」に上がってきます。

96 段上がったその場所から、ぜひ振り返って景色を見てほしいと思います。自分の積み重ねた財産が実感できるのではないのでしょうか。